The Report of Miki Delegation to Federation Council from August 21 to 28 in 2023

令和5年度姉妹都市交流事業
フェデレーション市
市民訪問団報告記

三木市・三木市国際交流協会

フェデレーション市 市民訪問団　団員名簿

2023年12月時点

	氏名	性別	所属
1	市川（いちかわ）　媛媛（あいあい）	女	高校１年生
2	立脇（たてわき）　愛結（あゆな）	女	高校１年生
3	林（はやし）　楽々香（ららか）	女	高校１年生
4	朝井（あさい）　椛瑚（もこ）	女	高校３年生
5	田中（たなか）　大賀（たいが）	男	高校３年生
6	藤原（ふじわら）　寛大（かんた）	男	高校３年生
7	阿在（あざい）　昇（のぼる）	男	成人
8	井澤（いざわ）　陽菜（はるな）	女	成人
9	五ノ井（ごのい）　耀久（てるひさ）	男	成人
10	近藤（こんどう）　直文（なおふみ）	男	成人
11	嵯峨（さが）　奈津美（なつみ）	女	成人
12	岩瀬（いわせ）　文彦（ふみひこ）	男	三木市市民協働課課長（随行者）
13	北村（きたむら）　エミ	女	三木市市民協働課係長（随行者）
14	マティノヴィッチ　千秋（ちあき）	女	三木市国際交流協会事務局職員（随行者）

フェデレーション市　　市民訪問団　　日程表

月日	時間	内容
2023年 8月 21 日(月)	13:45 14:00 17:00 18:20 22:00	市役所北玄関集合 市役所北玄関出発 伊丹空港発 羽田空港着 羽田空港発
8月22日(火)	08:50 15:00 16:15 18:00	シドニー空港着 シドニー空港発 オーブリー空港着　フェデレーション市へ コロワ市民センターにてホストファミリーと対面
8月23日(水)	09:00 11:00 12:30 15:30 19:00	コロワ高校訪問 コロワ市民センターにて歓迎式 コロワ市民センターからコレンダィナへ移動 コレンダィナにて昼食、散策、文化体験 コロワ市民センター着　ホストファミリー宅へ ホームステイ先がコロワの人のみコロワ高校のバラエティーナイトに参加
8月24日(木)	8:30 12:30 16:00	コロワ市民センターからウラナへ移動、ウラナ観光 クーノン牧場にて昼食、ファームツアー ウラナキャンプ場着、パビリオンにて夕食 ウラナキャンプ場に滞在(一泊)

月日	時間	内容
8月25日(金)	09:00	オークランド学校訪問
	11:00	オークランド学校発
		マルワラゴルフ場にて昼食、ゴルフレッスン
	15:00	マルワラゴルフ場発
	16:00	コロワゴルフ場にて送別会、姉妹都市交流ドキュメンタリーフィルム鑑賞
		ホストファミリー宅へ
8月26日(土)	終　日	ホストファミリーと過ごす
8月27日(日)	07:30	コロワ市民センター発、オーブリー空港へ
	10:05	オーブリー空港発
	11:20	シドニー空港着
		専用バスにてシドニー観光
	12:45	ランチ
	14:00	ミセスマッコリーチェア
	15:00	オペラハウス(アウトサイド)
	15:45	ザ・ロックス
	17:20	シドニー空港到着
	20:20	シドニー空港発
8月28日(月)	05:25	羽田空港着
	07:30	羽田空港発
	08:35	伊丹空港着
	10:00	市役所北玄関到着

8月21日（月）

伊丹空港～羽田空港、そしてシドニー空港へ

8月22日（火）

シドニー空港～オーブリー空港、そしてフェデレーション市にてホストファミリーと対面。小雨が上がった後にきれいな虹が出ていました。さあ、いよいよホームステイの始まりです。

8月23日（水）

コロワ高校を見学し、生徒と一緒にアンザックビスケットを作りました。コロワ市民センターで歓迎会の後、コレンダィナというアボリジニーの聖地を訪れました。コロワでホームステイをした団員は、コロワ高校のバラエティナイトというイベントで日本文化や三木市についての紹介をしました。

アボリジニーの聖地に入る前に煙で体を清めました。

8月24日（木）

ウラナ博物館で地域の人と交流した後、広大なクーノン牧場で羊の毛刈りを見たり野生動物と触れ合ったりしました。ウラナキャンプ場で一泊し、クルージングやキャンプファイヤー、星空観賞を楽しみました。

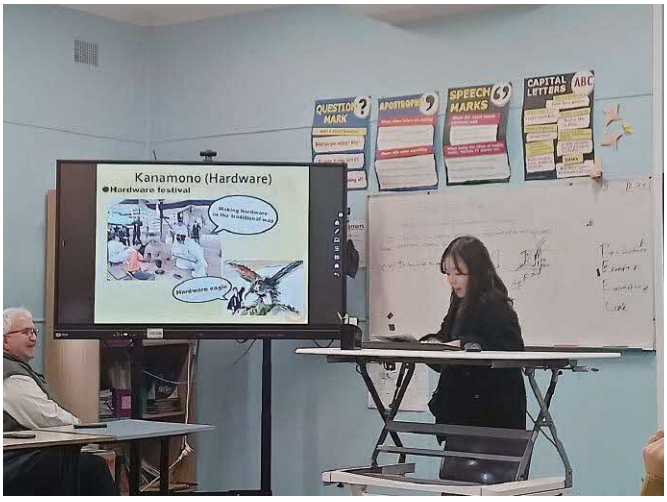
地元の小学生と一緒にクーノン牧場を見学しました。

8月25日（金）

オークランド校にて生徒と交流した後、マルワラゴルフ場で昼食＆ゴルフレッスンを体験しました。そしてコロワゴルフ場にて姉妹都市交流のドキュメンタリーフィルムを鑑賞しました。

オークランド校を見学し、広い運動場で一緒にラグビーを楽しみました。

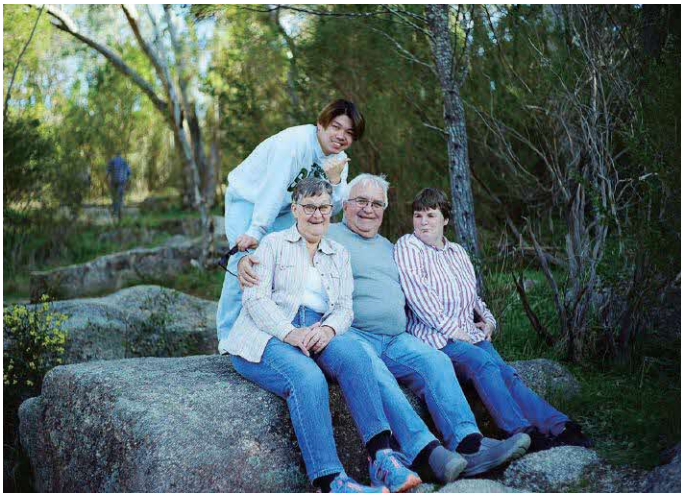
現地の生徒へそろばんや特産品の金物などを紹介し、落語や銭太鼓の芸能を披露しました。



8月26日（土）

ホストファミリーとの一日を満喫しました。

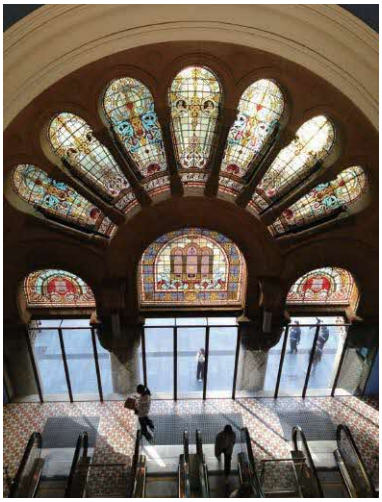
BILLSON'S
BREWERY



DISTILLING CO.

8月27日（日）

ホストファミリーとお別れの後、飛行機でシドニーへ。オペラハウスやザ・ロックス等を観光しました。



8月28日（月）

羽田空港～伊丹空港、そして三木市へ。みんな無事に帰国しました。

訪問団員の感想

「7 年ぶりの再会」 岩瀬　文彦（市民訪問団長）

８月 21 日から本市の姉妹都市の 1 つであるオーストラリア・フェデレーション市を訪問してまいりました。2017 年 3 月にも同市を訪問し、2 度目の訪問でした。今回の訪問でも感じたことは、異国の文化、習慣の違いや言葉の壁などは、双方の繋がろうとする気持ち次第で、いとも簡単に超えることができるということです。

今回も心温かく受け入れてくださったパトリック市長をはじめ、市関係者の皆さま、市民の皆さま、提携以来ずっとご尽力してくださっているゲイリー・ポイデヴィン元市長には感謝の一言に尽きます。今回は、渡航を待ちわびていた多くの学生たちが参加し、異国の文化、市民間交流を思う存分に満喫して楽しんでいる様子を見て、将来海外へ飛び立つ団員が出ることを確信しました。

フェデレーション市は、姉妹都市交流提携 25 年の記念と絆としてドキュメンタリー映画を制作してくださり、訪問時に完成記念上映会が開催されました。これまで交流に携われた方々の熱い想いとご尽力に感謝と敬意を表するとともに、この友情が絶えることなく、お互いの絆がより一層深まっていくことを切に願い、今後も微力ながら協力していきたいと思います。

「温かみ」 市川　媛媛

私は今回初めてアジア以外の国に行き不安と楽しみでいっぱいでした。英語が話せなくて飽きられるのではないか、ちゃんと話せるのかなどたくさんの不安でいっぱいでしたが、現地に着くと本当に温かく歓迎をしてもらい、今まで考えていたことがなかったかのようにフレンドリーでとても心が温かくなりました。ホストファミリーはとても優しく、私たちが聞き取れなかった英語があった際「私たちが日本語を習わなくちゃ、あなたたちは 2 カ国語も話せるのだからすごいわよ」と言って下さったのがとても印象に残っています。私は今回フェデレーション市に行き、現地の温かみをとても感じました。これから外国人が日本に来た際は相手方に不安を持たせないように、ジェスチャーでも相手との交流を積極的にしていきたいです。

「貴重な経験ができた 7 日間」 立脇　愛結

私は今回オーストラリアのフェデレーション市を訪問し、たくさんの刺激を受けました。まず私がフェデレーション市に持った第一印象は自然豊かな平和な街です。行く前に本当に何にもないところと聞いていたので行って本当に楽しいのかな？と心配していました。私はオーストラリアが今回で 3 回目だったのですが、いつも行っていたのは the 観光地という場所だったので内陸の場所が初めてでした。ですが、その心配は無用で、地域の人々の温かさにとても安心しました。そして、三木市と姉妹都市なのが本当に納得できて、いい意味で程よく田舎なところがとても落ち着きました。本当に時間の進みがゆっくりで自分が自然体で過ごせたのが印象に残っています。今回で得た、経験、人脈そして英語力をこれからも大切にしていきたいです。

「2つの学び」 林　楽々香

私は、2つの事を学びました。1つ目は、寄り添う事の大切さです。初日は英語が聞き取れず、会話に参加

する事がとても怖く、単語が思い浮かばない、間違えていたらと不安でいっぱいでした。しかし、話をしていると前のめりに理解しようとしてくれるホストファミリーに大事なのは、お互いを理解しようとする姿勢なのだと思いました。

2つ目は、声かけの大切さです。バラエティナイトでは大勢の人の前で拙い英語によるスピーチをする事は、ハードルが高く不安でした。そんな私に、「貴方なら出来るよ、大丈夫。」とホストファミリーの方が声をかけて下さり、私は比較的リラックスした状態で発表する事が出来ました。

この体験を活かし、相手の気持ちに寄り添い、ポジティブな声かけが出来る人になりたいと思いました。

「ホームステイの体験で感じたこと」 朝井 椛瑚

最初に、私がホームステイ体験と現地の人々と交流を通して感じたことは、人の温かさです。私は、ホームステイは初めての経験で、とても緊張していました。ホストファミリーはそんな私を見て、明るく話し掛けてくれて、緊張を解してくれました。ホストファミリー以外にも、出会う人皆優しくて、親切で、来て良かったなと思いました。ホストファミリーの話を聞いていると、会話の返事がひとつひとつ大きいなと感じました。どんなに小さい事でもたくさん褒めたり、びっくりしたり、笑ったりして、コミュニケーションをとっていました。そのおかけで、人見知りの私でも、会話に上手く溶け込めたと思います。私が快適にオーストラリアで過ごせたのは、小さな事も気にかけてくれるホストファミリーの優しさがあったからだと気付きました。私は、今回姉妹都市交流としてオーストラリアを訪問しましたが、また個人的に訪れたいなと思いました。

「フェデレーション市を訪問して」 田中 大賀

僕は、実際にオーストラリアニューサウスウェールズ州のフェデレーション市を訪問してみて、オーストラリア独自の自然や文化と地域の人々の優しさが溢れるとても住みやすく魅力的な町だと思いました。実は、僕は今回のフェデレーション市の訪問が初めての海外で慣れず、ホームステイ中に買い物の仕方や英語での会話で戸惑ったり困惑することがありましたが、その度にホストファミリーの方々に優しく丁寧に説明していただいたり、初日では、緊張していた僕のためにバスケットボールやエアホッケーなどに誘ってくださったなど、この一週間はフェデレーション市の方々やホストファミリーの優しさに助けられた一週間でした。

僕は、大学では国際関係学を学び、また一年ほどの留学にも行こうと考えています。その際には、フェデレーション市の方々やホストファミリーに僕がしてもらったように何か困っている方がいれば誰でも分け隔てなく助けるとともに、自身の課題であるコミュニケーションをとることに億劫にならずに何事も積極的にポジティブに思考又は行動ができるようにしていきたいと思います。

「“外”に触れて感じる」 藤原 寛大

私は、オーストラリアでの姉妹都市交流を通じて、今までの価値観が大きく変わりました。私にとっては初めての海外で、入国する時のワクワクと緊張は感じたことのない感覚で、その緊張のせいで入国のスタンプを貰い忘れたのは少し残念でした。ホームステイも初めてで、食事は身体にあうのか、気候で体調を崩さないか、無事帰ってこられるか心配でした。そして、自分の意見を英語で伝えられるかどうかも心配でした。しかしそれら

全ての心配が安心に変わりました。食事は美味しくて、気候は心地よく、この通り無事に帰って来て、オーストラリアに帰りたくなるぐらいです。もちろん、ホストファミリーとは意思疎通がしっかりできて、お互いの好きなアニメやゲームで話が盛り上がることもありました。今でもお互いの様子をメールで送り合っています。オーストラリアを訪れたことで新しい考え方が身についたと思います。

「私の訪問団経験の伝え方と活かし方」 阿在 昇

帰国報告会や写真展で、他の団員の方は「むちゃくちゃ楽しかった。」「ホストファミリーや現地の皆さんがとても親切だった。」「帰りたくなかった。」等と人的交流を中心にアピールしていました。その点では私も全く同感です。それと同時に巨大なユーカリの森などの大自然、その中に潜む野生動物を探しに行った事、地平線が見える広大な牧場、そしてだだっ広い道路、どれも驚きと感動の連続でした。

2025 年には私のホストだったスコットが観光のために来日するそうです。LINE 交換を続けて三木やその周辺を案内したいと楽しみにしています。それと今後は受け入れ側としてプレゼンとか次回の訪問団へのサポートも是非やりたいと思っています。

「フェデレーション市訪問を経て」 井澤 陽菜

今回私にとっては初の海外でした。現地の方々は想像以上に優しく、懐の深い人ばかり。英語が流暢でないため、あまり親切にされないかもしれないと勝手な偏見を持っていたのは私自身の方でした。オーストラリアは異なる国をバックグラウンドに持つ方が多いため、それぞれが自分と異なる見た目や話し方の他人を尊重し合っているのかなという風に感じました。

今回自分の英語力が不十分であるということを新ためて痛感させられた日々であったと同時に、英語で様々な国の方ともっと交流したい、他の国にも行ってみたいと思うきっかけにもなりました。ただ楽しかった訪問で終わるのではなく、言いたいことが伝わらない、分からないという悔しさ、新たな自分の思いに気づくことができたのは大変実りがあったように思います。この経験は新たなことに挑戦していくきっかけになりました。

「七日間の旅路」 五ノ井 耀久

私が中学 3 年生の時(2019 年)、ホストファミリーとしてフェデレーション市の方を受け入れました。その時に来年絶対にフェデレーション市を訪問したいと思っていましたが新型コロナウイルスの影響により行くことができませんでした。その間、フェデレーション市の事についても色々調べましたが、私が一番心配していたのは私の英語力についてです。しかし現地ではホストファミリーの方がとてもゆっくり、丁寧にわかりやすい英語で話してくださったので、私は少し話すことができました。

バラエティナイトというコロワ高校の文化祭で、私達は三木市や日本文化を題材にしたスピーチ等をしました。その会場には約 200 人の人が集まっておりかなり熱を帯びていました。私はそこで何事にも屈せずチャレンジするという事を学びました。今回の市民訪問団の体験は私の人生を大きく変える体験となりました。これからも三木市とフェデレーション市の交流が続くことを願っています。

「姉妹都市交流事業に参加して」近藤　直文

今回訪問団の一員として参加して感じた事として、以下の 2 点があります。一つは、先住民のアボリジニーを敬い、感謝して、大事にしていることで、後発で英国から移住してきた新住民と共存共生出来ていることを知り、多文化共生を推進している三木市民にとっては、多いに参考になると感じました。

もう一つは、多文化を感じるうえで、ホストファミリーの老夫婦と話す時間が多く持てたことにより、彼らのライフスタイルや夫と死別した一人暮らしの身内とも接することが出来、同じ境遇の自分の今後の生き方として、接してくれている人への感謝を忘れないという生き方が必要だと感じました。結論として、今回の姉妹都市国際交流は、若い世代、高齢者にも意義あるものと言えます。

「答えなき外国人受け入れ」嵯峨　奈津美

就職を機に三木市に引っ越し2年。ボランティアとして三木市在住の外国人と国際交流を行ってきたが、外国人を受け入れる側としての正解がわからず、自信が持てずにいた。フェデレーション市訪問では、普段とは反対の立場になり受け入れてもらう側を経験。こちらが拙い英語で話しても理解を試みる姿勢、オーストラリアの食や文化を体験させてくれるおもてなし力、常に相手を楽しませるエンターテイメント性、現地の方々の優しさに至れり尽くせりな 1 週間であった。

外国人の受け入れ方に答えはないが、言語は違えど、人の優しさや思いやりはいつか相手に通じるものだと信じている。次回の姉妹都市訪問団の受け入れは勿論、日本語教室等日々の活動の中でも相手を思いやる気持ちを忘れず、今後も三木市の国際交流に貢献していきたい。

「姉妹都市交流の在り方について」北村 エミ（随行者）

新型コロナウイルス感染症対策としての行動制限のため、昨年まで直接の訪問交流は延期されてきた。そのため、昨年は初めてのオンライン交流を開催した。現在はどこに居てもオンラインで交流し、仲良くなることが出来る。しかし、今回実際に訪問して、直接現地の人の生活に触れさせてもらうことで得た経験は、オンラインでは決して分からないことだった。彼らがどれほど家族や親戚を愛し、大事にしているか。近隣住民との繋がりを大切にし、どのように時間を過ごしているか。地元を誇りに思い、発展させるためにどのような努力をしているか。その生活に触れられたことはとても素晴らしいことであり、得難い経験となった。この素晴らしい体験を、多くの若い世代の人に体験してもらいたいと感じた。

「かけがえのない体験」マティノヴィッチ　千秋（随行者）

フェデレーション市に着いた時から市をあげて訪問団を歓迎してくださり、訪れた先々で地元の人々の温かい心遣いを感じました。歓迎式で、パトリック市長が言われた「私たちは言葉や文化が違っても同じ人間、だから通じ合える。」という言葉に感銘を受けました。滞在中は、360 度見渡す限りの平原の中で駆ける野生のカンガルーやエミュー、湖畔からの美しい夕日など圧巻の大自然を見ることができました。地元の人々が、家族や友人そして自然を愛し、互いに支え合って生活していることが素晴らしいと感じました。

日本には古い歴史があり、長く自国の文化を保持しているところが素晴らしいと言われ、日本の良さに気づかされるとともに、多様な文化や生き方に多くの刺激を受けました。多くの方がこのような交流をすることは、今後の多文化共生社会の推進につながることと思います。

1 フェデレーション市の概要

（1） コロワ市時代

フェデレーション市の前身であるコロワ市（Corowa Shire）は、オーストラリア国ニューサウスウエールズ州に位置し、人口 11,000 余人、面積 2,403 ㎢、面積は兵庫県の約 3 分の 1（三木市の約 20 倍）でした。ニューサウスウェールズ州の州都シドニーから、約 600 ㎞南西に位置しています。

農耕産業が盛んで、穀物栽培、羊の飼育などが大規模に行なわれ、1団体当たり経営規模は 100ha 1,000ha にもなります。また、ワイン工場を特色とした観光産業やレジャー産業も盛んで、観光客の多いときには人口が倍近くになります。

最高気温は、10 月から 4 月にかけて 25℃～38℃程度、最低気温は 5 月から 9 月にかけて 5℃～0℃程度です。季節（夏・冬）は日本と逆で、降雨量は平均して月に 40mm～50mm 程度で、三木市の約半分です。

（2） フェデレーション市誕生

2016年5月に、隣接するウラナ市と合併宣言をし、その後、フェデレーション市（Federation Council）となりました。これにより、人口は 12,600 余人、面積は 5,685 ㎢（三木市の約 32 倍）になりました。2017 年 9 月に議員選挙が行われ、その議員の中から市長が選出されました。

2 フェデレーション市（旧コロワ市）との交流概要

（1） コロワ市-吉川町

1995 年 4 月に、（財）自治体国際化協会よりオーストラリア・韓国・英国との友好都市提携の希望調査があり、同年 5 月に吉川町がコロワ市を希望する旨を提出しました。

同年 8 月、コロワ市から吉川町との交流を希望する旨の返答があり、11 月に東京で開催された自治体国際交流セミナーに吉川町から町長、助役、企画課長が、コロワ市からは市長、助役が参加しました。11 月 29 日から 12 月 1 日にかけてコロワ市長、助役が吉川町を訪問し、翌年 4 月 17 日～19 日には、吉川町長、議長がコロワ市を訪問しました。

1997 年 4 月 11 日に吉川町にて、同年 8 月 30 日にコロワ市にて姉妹都市提携盟約書への調印をしました。

1998.7 第 1 回吉川町学生派遣（学生 11 人、随行 4 人）
1999.4 第 1 回コロワ市交流使節団受入（学生 4 人、随行 3 人）
1999.7 第 2 回吉川町学生派遣（学生 8 人、随行 4 人）
2001.8 第 3 回吉川町学生派遣（学生 9 人、随行 6 人）
2002.8 第 2 回コロワ市交流使節団受入（学生 5 人、随行 6 人）
2003.1 吉川町親善訪問団がコロワ市を訪問（7 名）オーストラリア生誕記念へ連邦祭から招待
2003.8 第 4 回吉川町学生派遣（学生 12 人、随行 3 人）
2004.9 第 3 回コロワ市交流使節団受入（学生 9 人、随行 3 人）
2005.8 第 5 回吉川町学生派遣（学生 7 人、随行 4 人）
2005.9「吉川町制 50 周年記念事業」にコロワ市親善訪問団を招聘。吉川町を訪問（6 名）

（2）コロワ市-三木市

2005 年 10 月に三木市が吉川町と合併したことを受けて、新市としての三木市がコロワ市との姉妹都市交流を受け継ぐことになりました。10 月に当時の市長夫妻、助役夫妻、市議会議員夫妻が三木市を訪問し、姉妹都市提携盟約書への調印を行いました。

2006 年 11 月 16 日～21 日にかけて、三木市長夫妻、市議会副議長等がコロワ市を訪問し、姉妹都市提携盟約書に調印をしました。

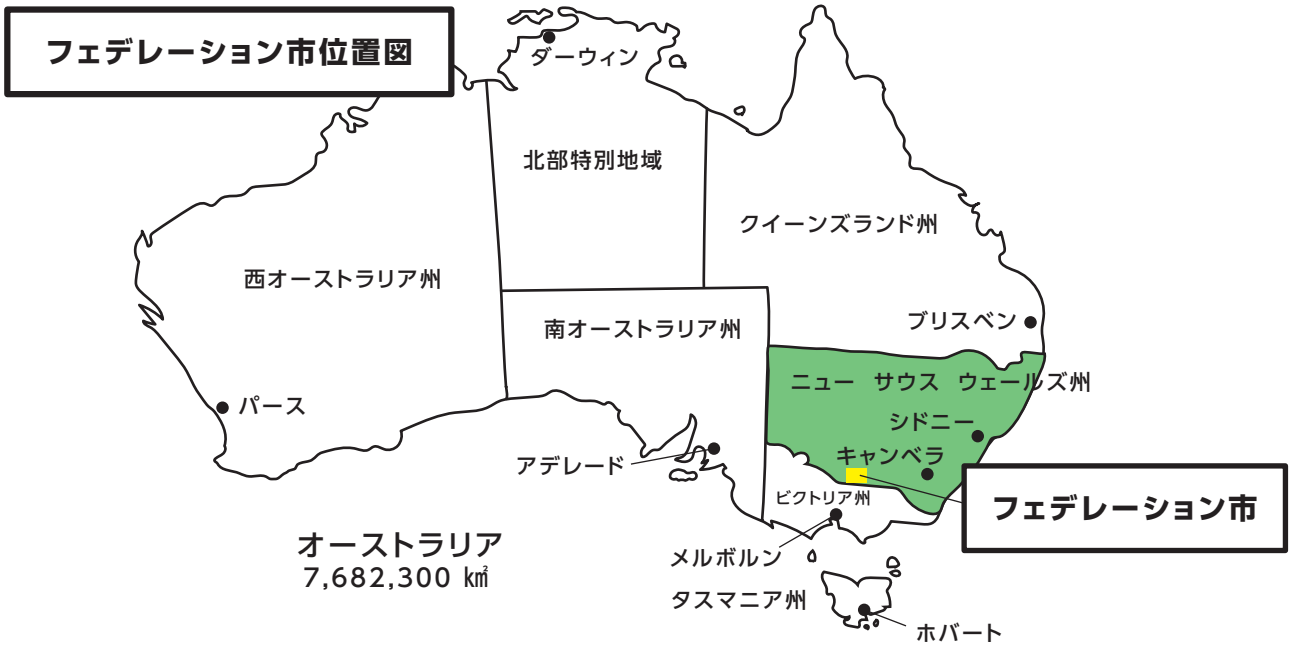
※姉妹都市提携時の盟約書調印は、両市で行われるのが原則となっています。また、提携 10 周年などを記念した年には、両市で訪問団を派遣し合うのが通例です。

2007.10　コロワ市親善交換学生が三木市を訪問（学生 11 人、随行 3 人）
2008.8　三木市親善交換学生がコロワ市を訪問（学生 9 人、随行 2 人）
2009.10　コロワ市親善交換学生が三木市を訪問（学生 5 人、随行 3 人）
2014.10　コロワ市親善交換学生が三木市を訪問（学生 10 人、随行 3 人）
2016.3　三木市市民訪問団がコロワ市を訪問（教育長、学生 7 人、市民 3 人、随行 2 人）

（3）フェデレーション市-三木市

2016年にコロワ市とウラナ市が合併したことにより、フェデレーション市が誕生しました。ウラナ市には姉妹都市はなく、フェデレーション市の姉妹都市として三木市との交流を継続する意向を受けました。これにより、フェデレーション市-三木市の姉妹都市交流が始まりました。

2017.10　フェデレーション市訪問団が三木市を訪問（議員 2 人、学生 7 人、随行 1 人）
2018.8　三木市市民訪問団がフェデレーション市を訪問
（市長、議員 1 人、学生 10 人、市民 2 人、随行 2 人）
2019.10　フェデレーション市長含む訪問団11名が三木市を訪問
2023.8　三木市市民訪問団がフェデレーション市を訪問（学生 6 人、市民 5 人、随行 3 人）



三木市

FEDERATION COUNCIL

三木市市民生活部市民協働課
三木市国際交流協会
三木市上の丸町10-30
TEL＆FAX 0794-89-2318